



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

8月号

令和5年8月11日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「自他の生命と人権を尊重し、
ねばり強くたくましい心豊かな
児童生徒を育成する」

～世界の架け橋となる子ども
たちの育成を願って～



2学期！ いのちを大切に、しっかり学びましょう

8月7日（月）2学期の始業式。

世界を見てもリオデジャネイロ日本人学校が一番早く学校が始まっています。南半球であるがゆえの特徴ですが、そこには意味があるように思います。

休み中、ブラジル出身で、現在大阪大学博士課程で学ぶモウラさんという女性がリオ日学を訪ねてきました。日本における日系ブラジル人子弟の教育と貧困について研究しておられ、日本の教育にも関心をお持ちです。

「リオ日学の平和教育はどうなっていますか？」と質問されました。学習指導要領には、平和に関する教育について、教科や様々な活動の中で平和の意義を指導することが大切であると示されています。

終戦から78年、広島・長崎の原爆慰霊が報道されています。8月7日だからこそ、終戦の日も含め、日本人として考えるチャンスであると思います。モウラさんには、始業式で絵本の読み聞かせをしながら平和について話そうと思っていると答え、私の中では構想段階のあいまいなイメージが、具体的な現実として決定しました。

いのちあつての出会いと経験を、当たり前と思うことなく、全てのことに感謝しながら、リオ日学の教育を進めてまいります。

＜始業式に誓うこと＞

始業式で、中学部2年の大野慧人さんが、2学期抱負で「学習と生活にメリハリをつけ、ポルトガル語を勉強したい。」と児童生徒を代表して発表しました。1時間目の学活では、それぞれの教室で2学期の抱負を考え、発表しています。これから始まる2学期は体験的な行事も多く、さらなる成長のチャンスです。みなさんの学びをしっかりと支えていきます。



＜始業式 校長講話より＞

7月15日から始まった23日間の冬休みが終わり、今日から2学期が始まります。

冬休みだからこそその学習や体験はできましたか？また、しっかり体を休めることができましたか？それらを活力として、2学期への新たな一歩が踏み出せると良いですね。

新学期を迎えるに当たり「へいわとせんそう」というお話しをします。1学期の終業式でも話しましたが、8月は、日本人にとって、原爆の日・終戦の日など、亡くなった方の魂を悼み、平和について考える特別な月です。また、世界に目を向けると、いまだ戦争が続いている国があり、いのちの大切さについて、しっかり考えることが大切です。この写真は25年前、父と私が一緒に撮ったスナップ写真ですが、こちらは戦争に出征する父と祖父が別れのしるしとして写真館で撮ったものです。詩人・谷川俊太郎の『へいわとせんそう』という絵本を読みますので、皆さんは伝えたいことが何であるか考えましょう。

『へいわとせんそう』は、いくつもの場面で、へいわとせんそうを対比させていますが、最後の「みかたのかお・てきのかお」「みかたのあさ・てきのあさ」「みかたのあかちゃん・てきのあかちゃん」の絵に何を感じましたか？どんなに憎しみあっても、朝は平等にやっけて美しく、生まれてくるあかちゃんには、みな幸せな顔をしています。今、私たちが国は戦争のない平和な世の中であるといえますが、遠い彼の地で起きている悲しい事実は同じ人としてあつてはならないことです。この世に生を受け、リオ日学に通い、仲間と出会い、笑って、泣いて、怒って、たくさんの経験ができます。うれしいこと、悲しいこと、悔しいこともあります。いのちあつてこそその人生、生きていればこそ味わえる醍醐味です。

日本は立秋、暑い日が続く中、秋の気配を感じ始める季節です。日本から「ひまわり・ゴーヤ・サルスベリ」の画像を送っていただきました。私の好きな花・サルスベリは、亡き父の葬儀の後、見上げた青空に咲いていた赤い花で、その時の映像はいまだに脳裏によみがえります。日本の季節やリオデジャネイロの季節の変化を感じながら、いのちを大切に、この出会いに感謝して、2学期を楽しく過ごしましょう。

○ リオ日学・発展的な学びを支えていただく
 <熊本 尚美 (くまもと なおみ) 先生>



毎週月・金曜日に、音楽の授業(1~3、4~5、7~8年生)をしていただきます。特に2学期は、文化祭に向けて、それぞれの複式学級で発表演奏の指導もお願いしております。フルートを専門に学ばれ、ショーロ(ブラジル音楽)と出会い、

20年前に来伯後、パンデイロやカバキニーヨなどと一緒に楽団で演奏されています。
 *ショーロ=ヨーロッパクラシックのメロディーとアフリカ音楽のリズムがミックスしたブラジル発の哀愁を帯びた音楽。

<THOMAS G. LOAFMANN (トム) 先生>



毎週木曜日に、英会話の授業(1~3、4~5、7~8年生)をしていただきます。テレビ画面やテキストの絵や図を使いながらステキな笑顔で授業をし、学校昼食会も一緒に食べ、楽しく会話ができます。チェスを楽しまれ、休日は奥様と

イパネマビーチやレブロン散歩をされているようです。

<MARCELLA OLIVEIRA DE SOUSA TADA (マルセラ) 先生>



毎週水曜日に、ポルトガル語の授業(1~3、4~5、8または7~8年生)をしていただきます。歌を歌ったり、一人一人に寄り添った丁寧な語りかけにより少しずつ自信を持つことができます。

セラミカ(陶芸)を2017年から始め、コップや花瓶などを作り、実際に食卓でも使

っているようです。料理が得意で、bacalhau(バカリャウ=タラ)を使ったおもてなし料理がお好きとのことです。

○ バスケットボールのゴール・登場!



海外子女教育財団の助成をいただき、バスケットゴールを購入しました。冬季休業中に3時間かけて組み立て、始業後にお披露目し、使用の方の約束をした後、さっそくシュートを

打ちました。高さは小学生用から国際規格まで変えることができ、子どもたちは高さの違いによるバスケットボールの面白さを味わっています。リオ日学の教員に、バスケットボール経験者が3人います。これからの体育の授業も楽しみです。

○ ブラジルとの交流



7月13日(木)の5時間目、ブラジルとのオンライン交流を行いました。首都ブラジルには、年齢の子どもたちが29名いると聞きますが、日本人学校も補習校もありません。そこで、リオ日学の子どもたちが学校や街の紹介を実物や絵を使ってクイズ形式で紹介したり、座談会形式で語り合ったりしました。

お互いに、いつかその街を訪ね、一緒に遊べたらいいですね。

○ 事務職員さんも一緒に避難訓練



8月9日(水)の避難訓練は暴漢が来た想定で行いました。子どもたちの命を最優先に行動しており、リオ日学で働く事務職員さんにとっても同様です。学校が一体となって危機管理をしっかりと行ってまいります。

○ 学習再開、学べる喜び!



8月7日(月)の始業式後、すぐに授業が始まりました。5~7年生の体育では、体幹を鍛えるトレーニングで、冬休み中に使わなかった筋肉が悲鳴を上げ、弱気になる自分に挑戦!と頑張ります。



3年生の理科では、1学期に植えたひまわりやかぼちゃが大きく成長し、開花や実のなる時が楽しみです。

学校で学べる喜びがいっぱい!

<アマゾンに抱かれて、父を想う>

休業中、マナウスを旅しました。アマゾン川で泳いだり、ピラニアを釣って唐揚げにしたり、ブラジルの大自然を満喫しました。一番の思い出は、ガイドの日系人・大塚さんとの出会いです。子どものころ、ジャングルの開拓生活で厳しい父から教育を受けたと聞き、お互いの父が海軍に所属する軍人であったことがわかりました。夕食時など、父との思い出や戦争を語り継ぐ大切さなど話し、アマゾンでこのようなご縁があるとは思えず、共感しました。父の魂を近くで感じた気がします。